

科目名 (英)	医療安全Ⅱ (Clinical SafetyⅡ)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員		
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 火曜日 4時限	
学科・専攻	視能訓練士科							
【授業の学習内容と心構え】 医療現場で実際に起こりやすい業務に関わる主な医療事故の種類について説明。安全を100%守る事はできないこと、人は誰でも間違えること、だからこそやるべきことは何かを理解する。また臨床現場でのチーム医療の一員として患者との関わりやチームで取り組む医療安全について学ぶ。								
【到達目標】 患者の安全を守ることはもちろん、自身の身を守るためにも医療安全管理体制を学ぶことは重要であることを理解することができ、業務に関連する安全対策を実行することができるようになる。								
【使用教科書・教材・参考書】					【授業外における学習】			
回	授業概要			回	授業概要			
1	【授業単元】 医療安全を学ぶ意義 【授業形態】 講義 【到達目標】 医療安全に関する基礎知識。 医療安全から患者安全という考え方を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
2	【授業単元】 医療事故の種類① 【授業形態】 講義 【到達目標】 薬剤に関する事故をなくすためにできることは何か説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
3	【授業単元】 医療事故の種類② 【授業形態】 講義 【到達目標】 転倒転落事故について理解することができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
4	【授業単元】 医療事故の種類③ 【授業形態】 講義 【到達目標】 誤認、取り違えミスをなくすためにできることは何か説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
5	【授業単元】 5S活動 【授業形態】 講義 【到達目標】 医療事故が起こる前に日常からできることを理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
6	【授業単元】 これだけは知っておこう 【授業形態】 講義 【到達目標】 一次救命とは何か知る。 基本のバイタルサイン				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
7	【授業単元】 試験対策 【授業形態】 講義 【到達目標】 医療安全に関する過去問題と説明				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
8	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】				【評価について】 定期試験100%			
【特記事項】								

科目名 (英)	人体の構造と機能Ⅱ (Structure and Function of the Human BodyⅡ)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	
学科・コース	視能訓練士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 火曜日 3時限
【授業の学習内容と心構え】 授業後は関連項目の国試過去問を解く練習をする							
【講師経歴】 医学博士。長年、医学部での研究・教育の傍ら、滋慶学園並びに医療系専門学校で基礎医学全般を教授							
【到達目標】 今まで学んだ人体の構造と機能(解剖学・生理学)の復習とともに、病理学、公衆衛生学との連携を行い、幅広い知識の拡充を目標とする							
【使用教科書・教材・参考書】 解剖生理学(人体の構造と機能) 医学書院、系統看護学王座 病理学 医学書院、わかりやすい公衆衛生学 ヌーヴェルヒロカワ				【授業外における学習】 講義終了後に復習を必ず行う			
回	授業概要			回	授業概要		
1	【授業単元】 細胞と基本構造と染色体 【授業形態】 講義 細胞内小器官の種類とそれらの機能。遺伝子(染色体)、疾患について理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 神経系 【授業形態】 講義 【到達目標】 中枢神経系の構造と機能、脳卒中も理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 神経系 【授業形態】 講義 【到達目標】 末梢神経系。脳神経、自律神経、ならびに視器と関連する筋肉の神経支配などを理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 内分泌 【授業形態】 講義 【到達目標】 ホルモン名、働き、分泌異常を理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 免疫 【授業形態】 講義 【到達目標】 免疫とは何か、アレルギー、自己免疫疾患などを理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 感染症 【授業形態】 講義 【到達目標】 病原体の種類、視器に関係する感染症も理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 公衆衛生学 【授業形態】 講義 【到達目標】 少子高齢化をふまえ、日本の人口動態統計を理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 第1回目の講義から第7回目の講義で学んだことについての理解度を確認する				【評価について】 定期試験 100点満点。実施方法:選択問題		
【特記事項】							

科目名 (英)	視覚生理学Ⅱ (Visual Physiology Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	
学科・専攻	視能訓練士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 水曜日 2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 視能訓練士の資格を有し、現場経験と複数の養成所で教育経験のある教員が、視覚生理の基礎的な知識を基にした応用問題、臨床知識について授業を行う。 基本的な知識は身につけている前提で授業を実施するため、復習を十分におこなっておくこと。							
【到達目標】 光覚、色覚、形態覚、視野、電気生理学の原理や検査法、対象疾患について理解し述べるができる。 2年次までの内容を正確に理解し、常に「なぜそうなるのか」を考えながら授業に取り組むことができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 視能学、配布資料等				【授業外における学習】 視覚生理学Ⅰおよび視覚生理学実習の内容を復習しておくこと。			
回	授業概要			回	授業概要		
1	【授業単元】視覚生理の基礎、光覚 【授業形態】講義 【到達目標】 光の明るさの単位、視覚に関わる法則や特性について述べられる。 錐体視色素と杆体視色素、昼盲と夜盲およびそれらをきたす疾患、暗順応曲線について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】色覚 【授業形態】講義 【到達目標】 色の特性、色覚異常の種類および特性について述べられる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】色覚、視野 【授業形態】講義 【到達目標】 色覚検査法、評価法について述べられる。 視野の概念、中心視野と周辺視野、動的視野と静的測定の定義および測定法を述べられる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】視野 【授業形態】講義 【到達目標】 視野異常の種類と疾患について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】視力(形態覚) 【授業形態】講義 【到達目標】 視力の尺度、評価法、遠見視力検査、近見視力検査について述べられる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】視力(形態覚) 【授業形態】講義 【到達目標】 乳幼児視力検査、コントラスト感度など特殊な視力検査について述べられる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】電気生理学 【授業形態】講義 【到達目標】 ERG、VEP、EOG等の電気生理検査とその検査法、正常値と異常値、異常値をきたす疾患が述べられる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】定期試験、解答解説 【授業形態】講義 【到達目標】 3年間で学んだ内容が定着できている。				【評価方法について】 評価は定期試験(100点満点)で行う。 その他、学則規定に準ずる。		
【特記事項】							

科目名 (英)	視器の解剖生理学Ⅱ (Anatomical Physiology of Visual Organs II)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	
学科・専攻	視能訓練士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日 2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 長年大学病院で臨床に携わり複数の養成校の実習生指導にも当たっている現役視能訓練士による解剖、疾病にかかわる知識を身につける。 毎回前回の内容を復習し小テストで確認する。							
【到達目標】 1年で行った解剖の「正常な眼球の測定値」「眼光学と解剖」「眼疾病と解剖」「眼の血液閾門」「眼の発生」などを復習し、眼疾患などに繋げて考えることができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 現代の眼科学 配布レジュメ				【授業外における学習】			
回	授業概要			回	授業概要		
1	【授業単元】 1年の復習 【授業形態】 講義 【到達目標】 正しい計測値等記憶する(復習) 組織の名称働きを復習する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 1年の復習 【授業形態】 講義 【到達目標】 正しい計測値等記憶する(復習) 組織の名称働きを復習する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 眼光学特性 【授業形態】 講義 【到達目標】 解剖と光学を繋げて考える				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 血液閾門 【授業形態】 講義 【到達目標】 眼球内部を閾門によって守る仕組み				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 脳神経と眼球 【授業形態】 講義 【到達目標】 眼球運動と解剖				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 眼の発生 【授業形態】 講義 【到達目標】 先天異常を学ぶ				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 復習 【授業形態】 講義 【到達目標】 練習問題の実施				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験・解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】				【評価方法について】 【定期試験】 (100点満点) 実施方法:筆記試験 授業内で確認した専門的な知識の理解を確認する。		
【特記事項】							

科目名 (英)	視能矯正学Ⅱ (Orthoptics Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	
学科・専攻	視能訓練士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分	後期 曜日・時間 金曜日 1・2限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 視能訓練士としての現場経験がある教員が担当します。1年次からの復習を行いながら、知識を結び付け、応用が出来るようになってきます。							
【到達目標】 今まで学んできた斜視やそれに関わる検査・治療などの知識を結びつけ、応用できるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 視能学、視能矯正学、眼科用語集、眼科検査ガイド、過去のレジュメ ※これ以外にも必要だと思うものは持参してください。				【授業外における学習】 国家試験の過去問題、模擬試験問題の解答解説を各自で実施しておくように			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 眼球運動 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・外眼筋の解剖と作用の理解 ・眼球運動の法則の理解 ・AC/A比の測定法、種類の理解			9	【授業単元】 特殊斜視・弱視・弱視訓練 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・弱視の病態を理解する。 ・弱視視力の特徴を理解する。 ・弱視の種類と原因を理解する。		
2	【授業単元】 眼球運動 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・外眼筋の解剖と作用の理解 ・眼球運動の法則の理解 ・AC/A比の測定法、種類の理解			10	【授業単元】 特殊斜視・弱視・弱視訓練 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・弱視の病態を理解する。 ・弱視視力の特徴を理解する。 ・弱視の種類と原因を理解する。		
3	【授業単元】 両眼視機能の基礎、両眼視機能検査 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・Panum's area とVieth-Muller horopterを理解する ・両眼視の成り立ちを理解する ・正常網膜対応と異常網膜対応を理解する			11	【授業単元】 斜視治療 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・斜視の手術を理解する。 ・斜視の訓練を理解する。		
4	【授業単元】 両眼視機能の基礎、両眼視機能検査 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・Panum's area とVieth-Muller horopterを理解する ・両眼視の成り立ちを理解する ・正常網膜対応と異常網膜対応を理解する			12	【授業単元】 データの読み取り 【授業形態】 講義 【到達目標】 データの読み取りが出来るようになる。 画像の読み取りが出来るようになる。		
5	【授業単元】 内斜視、外斜視 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・内斜視の種類を理解し、診断・治療が出来るようになる。 ・外斜視の種類を理解し、診断・治療が出来るようになる。			13・14	【授業単元】 データの読み取り 【授業形態】 講義 【到達目標】 データの読み取りが出来るようになる。 画像の読み取りが出来るようになる。		
6	【授業単元】 内斜視、外斜視 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・内斜視の種類を理解し、診断・治療が出来るようになる。 ・外斜視の種類を理解し、診断・治療が出来るようになる。			15	【授業単元】 復習 【授業形態】 講義 【到達目標】		
7	【授業単元】 その他斜視・特殊斜視 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・特殊斜視の種類を理解し、診断・治療が出来るようになる。				【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】		
8	【授業単元】 その他斜視・特殊斜視 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・特殊斜視の種類を理解し、診断・治療が出来るようになる。				【評価方法について】 【定期試験】 (100点満点) 実施方法: 筆記試験 授業内で確認した専門的な知識の理解を確認する。 評価は学則規定に準ずる。		
【特記事項】							

科目名 (英)	生理学Ⅱ (Physiologic Optics Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員			
	学科・専攻	視能訓練士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日	3時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 視能訓練士の資格を有する現場経験のある教員が、眼科検査に必要な光学の授業を行う。 1年次に学習した内容について理解を深めていく。									
【到達目標】 1年次に学んだ生理学の基礎知識について、応用できる力を培う。									
【使用教科書・教材・参考書】 視能学、屈折異常とその矯正、過去のレジュメ					【授業外における学習】 生理学Ⅰの復習してくること。 次の講義のはじめに小テストを実施するため、必ず復習を行うこと。				
回	授 業 概 要				回	授 業 概 要			
1	【授業単元】プリズムについて 【授業形態】講義 【到達目標】 Prenticeの式を使用し、レンズのプリズム効果の計算ができる。 プリズムの合成の計算ができる。				9	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
2	【授業単元】レンズの結像式について 【授業形態】講義 【到達目標】 物体と像の位置、その倍率を求めることができる。 拡大鏡の倍率の計算ができる。				10	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
3	【授業単元】調節について 【授業形態】講義 【到達目標】 調節力、明視域の計算ができる。				11	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
4	【授業単元】乱視の分類、検影法、反射鏡について 【授業形態】講義 【到達目標】 乱視の分類ができる。 検査手順、検査の利点・欠点が説明できる。 反射鏡の屈折力を求めることができる。				12	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
5	【授業単元】眼鏡とコンタクトレンズについて 【授業形態】講義 【到達目標】 眼鏡レンズの素材の特徴を説明できる。 眼鏡、コンタクトレンズの部位の名称を説明できる。 レンズによる拡大・縮小の効果や輻湊、調節の関係を説明できる。				13	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
6	【授業単元】屈折矯正について 【授業形態】講義 【到達目標】 眼鏡レンズからコンタクトレンズ度数を求めることができる。 頂間距離の違いによる屈折効果を計算できる。 涙液レンズの効果の計算ができる。				14	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
7	【授業単元】模型眼、収差について 【授業形態】講義 【到達目標】 Gullstrand模型眼の主な数値を述べるができる。 眼の軸と角度、Purkinje-Sanson像を説明できる。 Seidelの5収差、2種類の色収差、波面収差を説明できる。				15	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
8	【授業単元】定期試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】				【評価方法について】 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は、定期試験(100点)の100点満点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。				
【特記事項】									

科目名 (英)	眼科薬理学Ⅱ (Ophthalmic Pharmacology Ⅱ)		必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	
	学科・コース	視能訓練士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 水曜日 3時限
【授業の学習内容と心構え】 大学病院そして眼科専門病院に勤務した薬剤師として、全ての患者さんに適正かつ安全な薬物療法を提供・実践してきた経験を生かして、視能訓練士が扱う医薬品の医療安全確保のための知識を養うべく学習を講義します。出来るだけ臨床に即したディスカッションを交えながら覚える授業を取り入れる予定です。								
【到達目標】 薬理学とはどういう学問か、また投与された薬物が病態にどの様に作用して効果が発現するのか理解できる								
【使用教科書・教材・参考書】 点眼薬クリニカルブック、講義用レジュメ					【授業外における学習】			
回	授業概要				回	授業概要		
1	【授業単元】 第1回基礎的治療手技 【授業形態】 講義、パワーポイント使用、PC 【到達目標】 点眼薬の目的・種類・組成の知識をまとめ、SGD形式でお互い理解を深めテスト実施後完璧にする					【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 第2回 緑内障関連 【授業形態】 講義、パワーポイント使用、PC 【到達目標】 緑内障に関する知識をまとめ、SGD形式でお互い理解を深めテスト実施後完璧にする					【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 第3回 瞳孔・検査薬 【授業形態】 講義、パワーポイント使用、PC 【到達目標】 検査薬・治療薬に使用される瞳孔薬の種類とその違い(作用機序など)注意すべき点が言える。点眼試験の目的・種類・が言える					【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 第4回 疾病・治療組み合わせ 【授業形態】 講義、パワーポイント使用、PC 【到達目標】 国家試験によく出題される医薬品の組み合わせ問題に焦点をあわせ、理解を深め、知識を再確認する					【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 第5回 治療の副作用組み合わせ問題 【授業形態】 講義、パワーポイント使用、PC 【到達目標】 眼科領域で使われる医薬品の副作用についてまとめ、練習問題を解きながら知識を再確認する					【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 第6回 試験の傾向と対策 【授業形態】 講義、パワーポイント使用、PC 【到達目標】 国家試験の過去出題(午前)を検討し傾向と対策をはかる					【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 第7回 試験の傾向と対策 【授業形態】 講義、パワーポイント使用、PC 【到達目標】 国家試験の過去出題(午後)を検討し傾向と対策をはかる					【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 自律神経系を中心とした5択・穴埋め問題、筆記試験60分				【評価について】 実施方法:筆記試験 定期試験(100点満点)			
【特記事項】								

科目名 (英)	視能検査学Ⅱ (Orthoptic ExaminationsⅡ)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	
学科・専攻	視能訓練士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分	後期
						曜日・時間	金曜日 3時限
<p>【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】</p> <p>視能訓練士として大学病院で経験を積み、視機能療法の研究に携わってきた教員が、検査から画像分析までの検査学の授業を行う。事前に今まで実習などで学んだことの復習を行っておくこと。その上で授業に臨み不明な点を解決していく。常に「なぜその答えに到達するのか」理屈を考えるように努めてほしい。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>今まで座学で身につけた知識と実習で学んで経験とを結びつける。各検査に対してエビデンスを伴って説明が出来るようになる。</p>							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
視能学、現代の眼科学、眼科検査ガイド				国家試験過去問題の解答解説を行ってこくこと。			
回	授業概要			回	授業概要		
1	<p>【授業単元】 角膜、涙液、隅角検査</p> <p>【授業形態】 講義</p> <p>【到達目標】 角膜検査と涙液検査の原理、正常値が説明出来る。眼圧検査の評価と検査場の注意が説明出来る。</p>				<p>【授業単元】</p> <p>【授業形態】</p> <p>【到達目標】</p>		
2	<p>【授業単元】 視野、色覚検査</p> <p>【授業形態】 講義</p> <p>【到達目標】 視野検査、色覚検査の原理、検査結果の説明が出来る。</p>				<p>【授業単元】</p> <p>【授業形態】</p> <p>【到達目標】</p>		
3	<p>【授業単元】 電気生理検査</p> <p>【授業形態】 講義</p> <p>【到達目標】 電気生理学の原理、基礎知識、検査結果の説明が出来る。</p>				<p>【授業単元】</p> <p>【授業形態】</p> <p>【到達目標】</p>		
4	<p>【授業単元】 外眼部検査、細隙灯顕微鏡検査</p> <p>【授業形態】 講義</p> <p>【到達目標】 外眼部検査の検査方法、正常値が説明出来る。細隙灯顕微鏡の検査法が説明出来る。</p>				<p>【授業単元】</p> <p>【授業形態】</p> <p>【到達目標】</p>		
5	<p>【授業単元】 眼底検査、眼底画像検査</p> <p>【授業形態】 講義</p> <p>【到達目標】 眼底検査、蛍光造影検査、光干渉断層計の比較と検査法の特徴、留意点が説明出来る。</p>				<p>【授業単元】</p> <p>【授業形態】</p> <p>【到達目標】</p>		
6	<p>【授業単元】 超音波検査、眼軸長検査</p> <p>【授業形態】 講義</p> <p>【到達目標】 超音波検査、眼軸長検査の原理、基礎知識が説明出来る。</p>				<p>【授業単元】</p> <p>【授業形態】</p> <p>【到達目標】</p>		
7	<p>【授業単元】 画像検査</p> <p>【授業形態】 講義</p> <p>【到達目標】 疾患と有用な画像検査と正常画像と疾患別の画像を説明出来る。</p>				<p>【授業単元】</p> <p>【授業形態】</p> <p>【到達目標】</p>		
8	<p>【授業単元】 定期試験、解説</p> <p>【授業形態】 講義</p> <p>【到達目標】 各検査に対し正常値、検査対象、検査目的、結果の読み方を説明出来る。</p>				<p>【評価方法について】</p> <p>評価は筆記試験(定期試験)と小テストで行う。授業内で確認した専門的知識の理解、定着度を確認する。筆記試験(定期試験)60点、小テスト40点の合計100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。</p>		
<p>【特記事項】</p> <p>毎回小テストを実施する</p>							

科目名 (英)	生理光学実習Ⅲ (Practical Training in Visual Physiology)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	
学科・専攻	視能訓練士科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	30時間 1	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日 1~2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 視能訓練士として臨床現場で経験を積んだ現役の視能訓練士複数名により、チームごとに分かれ指導を行う。 臨床実習直前実習のため実際の患者をイメージし外来に立つ実習生にふさわしい身なり、言葉遣いを学ぶ。 またこれまでに学んできたことの総復習を行う。事前情報がなくても視力測定ができる 疾患の診断・治療に与える検査結果の重要性を理解し、責任ある検査を出せる視能訓練士を目指す。							
【到達目標】 実習レポートの作成。 ロールプレイを通して基礎的な検査を現場で行えるよう、様々な疾患の診断に必要な検査を考え実行する。問診表の読み方、問診のポイント 臨時実習に向けて眼科外来に立つためのマナー、課される実習課題やレポートなど提出期限を守ることができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 眼科検査ガイド、視能矯正学、配布レジュメ				【授業外における学習】 配布されたレジュメを読み返す。 検査ごとのファイルを作成し、数多くの検査について調べやすい工夫をする			
回	授業概要			回	授業概要		
1・2	【授業単元】 検者・被検者に分かれ、実習を行う 【授業形態】 実習 【到達目標】 病院検査室をイメージし、患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を身に付ける。 検査に必要な問診の方法を学ぶ。疾患による検査項目の選び方、検査結果の読み方を知る。						
3・4	【授業単元】 検者・被検者に分かれ、実習を行う 【授業形態】 実習 【到達目標】 病院検査室をイメージし、患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を身に付ける。 疾患による検査項目の選び方、検査結果の読み方を知る。						
5・6	【授業単元】 検者・被検者に分かれ、実習を行う 【授業形態】 実習 【到達目標】 病院検査室をイメージし、患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を身に付ける。 疾患による検査項目の選び方、検査結果の読み方を知る。						
7・8	【授業単元】 検者・被検者に分かれ、実習を行う 【授業形態】 実習 【到達目標】 病院検査室をイメージし、患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を身に付ける。 疾患による検査項目の選び方、検査結果の読み方を知る。						
9・10	【授業単元】 検者・被検者に分かれ、実習を行う 【授業形態】 実習 【到達目標】 病院検査室をイメージし、患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を身に付ける。 疾患による検査項目の選び方、検査結果の読み方を知る。						
11・12	【授業単元】 実技、小テスト 【授業形態】 実習 【到達目標】 病院検査室をイメージし、患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を身に付ける。 疾患による検査項目の選び方、検査結果の読み方を知る。 定期試験に向けての小テスト(筆記)を行う。						
13・14	【授業単元】 実習、小テスト 【授業形態】 実習 【到達目標】 病院検査室をイメージし、患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を身に付ける。 疾患による検査項目の選び方、検査結果の読み方を知る。 定期試験に向けての小テスト(筆記)を行う。						
15	【授業単元】 定期試験(筆記+実技)、実技チェック 【授業形態】 実習 【到達目標】				【評価方法について】 定期試験(筆記+実技) 100% 筆記 60% 実技 40% は必須である。提出期限に間に合わない場合実技試験から減点とする 課題提出		
【特記事項】 実習は検者、被検者のペアで行うため、遅刻・欠席のないように。 注意事項をメモする習慣をつける。							

科目名 (英)	神経眼科学Ⅱ (Neuro-ophthalmology Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	
学科・専攻	視能訓練士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日 1時限
<p>【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 視能訓練士として臨床経験を積んだ教員が経験と知識をもとに、視能訓練士に必要な神経眼科の授業を行う。 2年次に学んだ知識をまずは復習し、臨床的にとらえることができるようになってほしい。</p>							
<p>2年次までの内容を正確に理解し、常に「なぜそうなるのか」を考えながら授業に取り組むことで、理解を深めることができるようになる。 正常な経路を理解し、患者の主訴や所見から障害部位や疾患の特定ができるようになる。</p>							
【使用教科書・教材・参考書】 『神経眼科臨床のために』『視能学』				【授業外における学習】 授業の復習を行い、疑問点は積極的に質問する			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 瞳孔異常 【授業形態】 講義 【到達目標】 瞳孔異常の代表的疾患の特徴を説明出来、正答できる。 ・瞳孔の生理機序(対光反応路・散大路) ・瞳孔検査(対光反応検査・RAPD・対光近見解離) ・散瞳・縮瞳の生理と疾患(Homer/Adie/Argyll Robertson/Parinaud症候群/動眼神経麻痺)				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 眼瞼の異常 【授業形態】 講義 【到達目標】 眼瞼の生理と代表的眼瞼疾患を説明できる ・眼瞼の解剖と生理(開眼・閉眼) ・眼瞼下垂の原因別分類(神経原性・筋原性) ・眼球突出の原因、突出検査				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 眼球運動障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 眼球運動の基礎を説明できる ・眼筋の生理、支配神経、眼球運動の法則 ・眼球運動路(衝動性水平眼球運動路)				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 眼球運動障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 眼球運動障害の障害部位と特徴的な症状を説明できる1 ・眼球運動障害の分類(核上性・核および核下性) ・代表的な障害と特徴(眼筋麻痺)				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 眼球運動障害・眼振 【授業形態】 講義 【到達目標】 眼球運動障害の障害部位と特徴的な症状を説明できる2 ・代表的な障害と特徴(重症筋無力症・甲状腺眼症・眼窩底骨折) ・眼振(測定・生理的眼振と病的眼振・代表的の疾患・治療)				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 視神経疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 視神経疾患の原因と特徴を説明できる1 ・視神経の解剖(眼球内・眼窩内・視神経管・脳内) ・視路(視細胞から後頭葉1次視覚野まで) ・特徴的な視野異常				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 視神経疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 視神経疾患の原因と特徴を説明できる2 ・代表的な視神経障害(視神経炎・視神経症・うっ血乳頭・レーベル病) ・その原因と特徴的な眼症状				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験・解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】				【評価方法について】 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は、定期試験100点満点で評価する。 評価基準は学則規定に準ずる。		
<p>【特記事項】 2年時に使用したレジュメを整理し、持参すること また正常な視路、対光反応、水平の眼球運動の経路は覚えておくように</p>							

科目名 (英)	眼科学Ⅱ (Ophthalmology Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	
学科・専攻	視能訓練士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 火曜日 1時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 近年国家試験での出題数が増加している眼疾病を眼科写真技師として25年以上携わっている講師が画像を沢山取り入れわかりやすく解説する。また蛍光眼底造影、光干渉断層計及びフォトスリットランプの基本的な読影法を教える。眼底がわかるようになれば他の検査結果も理解できるようになるため、難しいと思わず楽しんでほしい。							
【到達目標】 画像を見て何の疾患か、またその特徴は何かを引き出せるようになる。また必要な検査を考え、その結果までわかるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 配布資料、現代の眼科、眼科検査ガイド				【授業外における学習】 様々な疾病の画像をたくさん見る。復習をしっかりとすること			
回	授業概要			回	授業概要		
1	【授業単元】 正常眼底を知る/眼底出血の種類及び違い 【授業形態】 講義 【到達目標】 正常が分からないと異常もわからない。きちんと正常眼底を覚え、様々な眼底出血の違いを見極められるようになる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 蛍光眼底造影、光干渉断層計、フォトスリットランプ 【授業形態】 講義 【到達目標】 蛍光眼底造影、光干渉断層計、フォトスリットランプの基本的読影法を学ぶ				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 網膜疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 生活習慣病による様々な眼底疾患や網膜剥離の形態を理解し、特徴を掴む				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 黄斑疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 近年増加している加齢黄斑変性症をはじめとする黄斑部疾患について学ぶ				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 ぶどう膜炎 【授業形態】 講義 【到達目標】 ぶどう膜炎の原因、種類を理解し、3大ぶどう膜炎についてしっかりと特徴を掴む				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 緑内障 【授業形態】 講義 【到達目標】 中途失明原因第1位である緑内障は視能訓練士として一番かかわる疾患である。種類のみならず視野の変化、薬理を含めてしっかりと理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 視神経乳頭疾患/腫瘍 【授業形態】 講義 【到達目標】 緑内障以外の視神経に病変がある疾患の原因、検査について理解する。また、生命にもかかわる腫瘍の特徴を掴む。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 先天及び周産期疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 遺伝疾患や周産期の異常で生下時より眼障害を起こす疾患の原因及び特徴を掴む			【評価方法について】 出欠、授業態度、定期試験			
【特記事項】 とにかく画像をたくさん見て疾病ごとの特徴的所見を覚える。							

科目名 (英)	眼疾病学Ⅱ (OphthalmologyⅡ)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	後期 木曜日 4時限
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	
学科・コース		視能訓練士科					
【授業の学習内容と心構え】 視能訓練士としての現場経験を重ね現役として従事している教員が、臨床現場において重要な眼疾患についての病態・検査法・鑑別診断・治療法を教える。自分が臨床の現場に立つ事を常に意識して、なぜ？どうして？とその理由を考えながら取り組む事が大切である。							
【到達目標】 視能訓練士が関わる眼疾患を中心にその病因と病態を理解し、必要な検査法の選択および鑑別診断をすることが出来る。							
【使用教科書・教材・参考書】 現代の眼科学、視能学、眼科検査ガイド				【授業外における学習】 ワークシートを中心に復習し、ポイントの整理を行うこと。			
回	授業概要			回	授業概要		
1	【授業単元】 涙器疾患、眼瞼疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 涙器疾患・眼瞼疾患の症状・原因・鑑別診断・治療法について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 結膜疾患、角膜疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 結膜疾患、角膜疾患の症状・原因・鑑別診断・治療法について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 水晶体疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 水晶体疾患の症状・原因・鑑別診断・治療法について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 緑内障 【授業形態】 講義 【到達目標】 緑内障の症状・原因・鑑別診断・治療法について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 網膜疾患① 【授業形態】 講義 【到達目標】 網膜疾患の症状・原因・鑑別診断・治療法について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 網膜疾患②・硝子体疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 網膜疾患・硝子体疾患の症状・原因・鑑別診断・治療法について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 ぶどう膜炎疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 ぶどう膜炎の症状・原因・鑑別診断・治療法について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 復習と定期試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 まとめと定期試験			【評価について】 〔中間試験〕 実施方法:実施なし 〔定期試験〕 (100点満点) 実施方法:筆記試験 評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	視能矯正学実習Ⅲ	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	
	(Practical Training in Orthoptics Ⅲ)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	30時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 3・4時限
学科・専攻	視能訓練士科						
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 実務経験のある視能訓練士複数によるチームごとの指導を行う。臨床実習直前実習のため実際の患者をイメージし外来に立つ実習生いふさわしい身なり言葉使いを学ぶ。 実習病院で体験できる検査を中心に総復習を行う。							
【到達目標】 実習レポートの作成。基礎的な検査を現場で行えるようトレーニングする。様々な眼位異常、眼球運動障害、小児の早期診断、治療につなげていく							
【使用教科書・教材・参考書】 眼科検査ガイド 視能矯正学 配布レジュメ				【授業外における学習】 配布されたレジュメを読み返す。検査ごとのファイルを作成し数多くの検査について調べやすい工夫をする 実習レポートを作成する			
回	授業概要			回	授業概要		
1・2	【授業単元】 問診の取り方、問診の流れ 【授業形態】 実習 【到達目標】 問診から疾患を想定することができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3・4	【授業単元】 疾患を想定し、実際に考えてやってみる 【授業形態】 実習 【到達目標】 問診から疾患を想定することができる。 問診から必要な検査を考える。 ※毎回終わりの20分くらいは次回分の疾患を考える時間とします。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5・6	【授業単元】 疾患を想定し、実際に考えてやってみる 【授業形態】 実習 【到達目標】 問診から疾患を想定することができる。 問診から必要な検査を考える。 ※毎回終わりの20分くらいは次回分の疾患を考える時間とします。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7・8	【授業単元】 疾患を想定し、実際に考えてやってみる 【授業形態】 実習 【到達目標】 問診から疾患を想定することができる。 問診から必要な検査を考える。 ※毎回終わりの20分くらいは次回分の疾患を考える時間とします。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
9・10	【授業単元】 疾患を想定し、実際に考えてやってみる 【授業形態】 実習 【到達目標】 問診から疾患を想定することができる。 問診から必要な検査を考える。 ※毎回終わりの20分くらいは次回分の疾患を考える時間とします。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
11・12	【授業単元】 疾患を想定し、実際に考えてやってみる 【授業形態】 実習 【到達目標】 問診から疾患を想定することができる。 問診から必要な検査を考える。 ※毎回終わりの20分くらいは次回分の疾患を考える時間とします。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
13・14	【授業単元】 6回目までと同様+小テスト 【授業形態】 実習 【到達目標】 問診から疾患を想定することができる。 問診から必要な検査を考える。 ※毎回終わりの20分くらいは次回分の疾患を考える時間とします。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
15・16	【授業単元】 定期試験(実技+筆記)、解答解説 【授業形態】 実習 【到達目標】 試験は今までの総復習です。			【評価方法について】 【中間試験】 筆記(4割換算) 【定期試験】 筆記+実技(6割換算) 評価は学則規定に準ずる。 また、授業内で指定された課題が期限内に提出されなかった場合は実技試験から減点します。			
【特記事項】							

科目名 (英)	実習前教育Ⅱ(ロールプレイ) (Clinical practiceⅡ)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	
学科・専攻	視能訓練士科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	45時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日4限・金曜日1・2限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
視能訓練士として経験を積んできた教員が、現場に必要な知識や患者対応をロールプレイを通して教える。視能訓練士は、これまで学んだ専門的知識を土台に自分で物事を考えるだけでなく、患者の背景を理解し全体像を捉え対応していくことが不可欠になる。問診内容や検査データから患者の全体像を捉えるように努める。また、多くの書籍、文献から必要な情報を得る体験を通して自らが成長し続けることが可能であることを実感する。グループワークでは積極的に発言、傾聴し、チームで働くことで最善の医療を提供できることを理解する。							
【到達目標】							
提示された症例に対し、検査計画に必要な確な問診をすることができる。また、検査結果から病態評価をし、症例に合わせた適切な治療・訓練計画を立てることができる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
視能学、眼科検査ガイド、現代の眼科学、視能矯正学他、症例検討に必要なものを各自持参すること				授業内で発表準備まで到達しなかった場合は、次回授業まで各グループごとに発表準備を行うこと			
回	授業概要			回	授業概要		
1～2	【授業単元】 ロールプレイの流れ説明と練習問題 【授業形態】 実習 【到達目標】 ロールプレイの方法を学び、主訴から必要な検査を選択できる。			15	【授業単元】 症例4の検討とプレゼンテーション 【授業形態】 実習 【到達目標】 主訴から必要な検査・予測される結果、治療を考え説明できる。		
3～4	【授業単元】 症例1の検討とプレゼンテーション 【授業形態】 実習 【到達目標】 ロールプレイの方法を学び、主訴から必要な検査・予測される結果を説明できる。			16～17	【授業単元】 症例5の検討とプレゼンテーション 【授業形態】 実習 【到達目標】 主訴から必要な検査・予測される結果、治療を考え説明できる。		
5～6	【授業単元】 症例1の検討とプレゼンテーション 【授業形態】 実習 【到達目標】 主訴から必要な検査・予測される結果、治療を考え説明できる。			18	【授業単元】 症例5の検討とプレゼンテーション 【授業形態】 実習 【到達目標】 主訴から必要な検査・予測される結果、治療を考え説明できる。		
7～8	【授業単元】 症例2の検討とプレゼンテーション 【授業形態】 実習 【到達目標】 主訴から必要な検査・予測される結果、治療を考え説明できる。			19～20	【授業単元】 症例6の検討とプレゼンテーション 【授業形態】 実習 【到達目標】 主訴から必要な検査・予測される結果、治療を考え説明できる。		
9	【授業単元】 症例2の検討とプレゼンテーション 【授業形態】 実習 【到達目標】 主訴から必要な検査・予測される結果、治療を考え説明できる。			21～22	【授業単元】 症例6の検討とプレゼンテーション 【授業形態】 実習 【到達目標】 主訴から必要な検査・予測される結果、治療を考え説明できる。これまでに学んだ症例について検討し、レポートをまとめて提出する。		
10～11	【授業単元】 症例3の検討とプレゼンテーション 【授業形態】 実習 【到達目標】 主訴から必要な検査・予測される結果、治療を考え説明できる。			23～24	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 臨地実習に向けて基本的な必要知識の確認 1) 略語・正常値試験 2) 解剖学試験(視能訓練士ドリルより出題)		
12	【授業単元】 症例3の検討とプレゼンテーション 【授業形態】 実習 【到達目標】 主訴から必要な検査・予測される結果、治療を考え説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
13～14	【授業単元】 症例4の検討とプレゼンテーション 【授業形態】 実習 【到達目標】 主訴から必要な検査・予測される結果、治療を考え説明できる。			【評価方法について】 評価は筆記試験(50点)とレポート課題提出(30点)、授業態度(20点)の合計100点満点で行う。 【レポート課題】1症例に対する個人考察。 (診断に及んだ根拠・優先すべき治療法・新しく学んだ事・気づき等) ※表紙を含みA4レポート用紙2枚以上(word可、フォント10.5)			
【特記事項】				評価は学則規定に準ずる。			
グループワークでの授業が主となる。人任せにするのではなく、積極的にワークに関わるようにしましょう。							

科目名 (英)	臨地実習(実習後教育) (Clinical Practice)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	
学科・専攻	視能訓練士科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 水曜日 4時限
【授業の学習内容と心構え】 視能訓練士として臨床経験を積んできた教員が、実習報告会、症例報告会のプレゼンテーション指導を行う。							
【到達目標】 臨地実習で身につけた知識や経験を他者にアウトプットすることが出来る。 実習報告会で相手に伝わりやすい発表をすることが出来る。 症例報告会では学会発表に準じた形式で発表することが出来る。							
【使用教科書・教材・参考書】 実習記録、視能学等、その他発表に必要なものを各自持参すること				【授業外における学習】 分からない専門用語については各自調べること。			
回	授業概要			回	授業概要		
1	【授業単元】 臨地実習振り返り 【授業形態】 実習 【到達目標】 臨地実習で成長した自分自身について自分の言葉で発表できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 実習報告会準備① 【授業形態】 実習 【到達目標】 グループで臨地実習の振り返りを行い担当施設の特徴をポイントを絞って発表できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 実習報告会準備② 【授業形態】 実習 【到達目標】 グループで臨地実習の振り返りを行い担当施設の特徴をポイントを絞って発表できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 症例報告会準備① 【授業形態】 実習 【到達目標】 臨地実習から1症例選択し有益な発表ができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 症例報告会準備② 【授業形態】 実習 【到達目標】 臨地実習から1症例選択し学会形式に則った発表ができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 症例報告会準備③ 【授業形態】 実習 【到達目標】 臨地実習から1症例選択し学会形式に則った発表ができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 症例報告会 【授業形態】 実習 【到達目標】 臨地実習から1症例選択し学会形式に則った発表ができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 実習 【到達目標】 内定者インタビューを聞き、今後の就職活動のフローを述べることが出来る。 1～3年次の自分の成長を客観的に書きまとめることが出来る。			【評価について】 評価は出席率及び授業態度(40点)、提出物(60点)合計100点満点で行う。 提出物に関しては、課題内容、期限内提出、誤字脱字が評価の対象となる。 評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							